

長畝ふるさと通信

【2016年1月号】

■ 暖冬のように・・・

12月から1月中旬までほとんど雪が積もりませんでした。このままでは春の田んぼ水が心配と、16日に開催された水利組合の総会では雨乞いならぬ「雪乞い」とばかりに願掛け酒飲み大会となりました（別に理由は無くとも水利に水はつきものと昔から飲みまわっていますが・・・）。神様に願いが届いたのか、翌日には首都圏や西日本で最強寒波が襲来し各地で大変なことになりました。佐渡もご覧の通り、辺り一面銀世界となりましたが、2～3日でほとんど消えてしまいました。

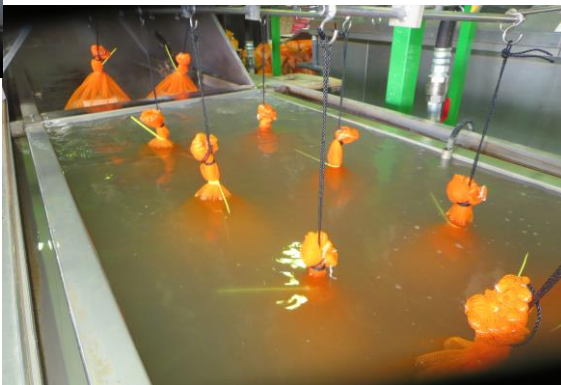
ただ、風は強く日本海は大荒れで船は連日欠航、物流がストップしてしまう事態となりました。育苗のビニールハウスも1棟、被害に遭いました（下写真）。1月末になっても多少の雪は降るものの平野部に積雪はほとんどありません。



月末にはインフルエンザが蔓延し、欠勤者も多数出てしまい大変でした。1番最初にかかったのがボクだったので、皆さんには大変ご迷惑をお掛けしてしまい、お詫びのしようもありませんでした。

■ 温湯消毒

1月20日から今年も種もみの温湯消毒作業が始まりました。処理量は約165トン。毎日平均6トンずつ処理して一ヶ月間かかります。この間、作業は1日も休まず、交代勤務となりますが、作業は超単純で根気が要ります。



■ トキ野生復帰ロードマップ2020

佐渡でトキの野生復帰に関わっている環境省の自然保護官の方と話す機会がありました。当初「2015年までに野生のトキを60羽定着させる」ことを目標にしてきましたが、2008年9月に第1回放鳥を開始して以来、計13回で215羽を放鳥し、2014年6月時点で「60羽定着」の目標は達せられたそうです。現在次期目標を「2020年（平成32年）頃に佐渡島内に220羽のトキを定着させる」こととし、その取り組み内容を策定しているとのことでした。「定着」の定義は野生下で1年以上生存していることだそうです。環境省の公表しているデータを見ると、2016年2月2日現在で放鳥数215，うち生存扱い113，行方不明15，死亡扱い68，死亡（死体確認）16，保護・収容3，野生下で誕生したトキ生存個体数41となっています。

今では朝晩、うちでもトキの鳴き声が聞こえ、姿も頻繁に見ることが出来るまでになりました。特に今年は田んぼにも雪が積もっていないせいか、田んぼにおりたってエサをついばむ光景を良く目にします。また、夕方ねぐらへ帰って行く時の「朱鷺色」と呼ばれる羽色は鮮やかで感動的です。是非、次の目標も早期にクリアして欲しいものです。

また、保護管からこんな提案がありました。せっかく佐渡へトキを見に来て下さる観光客に「野生トキ観察施設」なるものを整備したいそうで……。つまり高さ10メートル程度の観察塔を設置して、そこから野生のトキの様子を大勢の方々に見せてあげたいという構想があるそうです。気持ちはわからなくもないのですが……。



せっかく来たのに見られないのはお気の毒？そうでしょうか？トキは佐渡の自然と一体となって価値があると思います。あらかじめ準備されたステージで必然的に見たトキでは野生下であっても感動は半減してしまうと思います。今回見られなかった「残念、でもまた来よう！」となって欲しいと思います。「トキと共生するための佐渡ルール」すら浸透していないのに、観光業者が絶対的スポットを放置するはずがありません。必ず問題発生してしまいます。環境省ではこのプランがすでに具体化されているようで、ボク自身は少し心配しています。

■ 春が待ち遠しい

28年産の作付計画も出来上がりました。話題の新品種「新之助」は残念ながらまだ一般的に作ることも販売することも出来ません。平成29年産より一般販売が可能となるそうです。